

弘前大学
教育学部紀要

第 124 号

令和 2 年 10 月

Bulletin of the Faculty of Education
Hirosaki University

No. 124

October 2020

弘前大学教育学部

Hirosaki, Japan

目 次

| | |
|--|--|
| 『京の水』の資料性について —江戸時代後期の漢字表記と振り仮名— | 郡 千寿子 (1) |
| 国語科説明的文章学習における「比較」の実相 (1) | 田 中 拓 郎 (9) |
| 廃名『莫須有先生伝』訳稿 (四) | 張 雪 晶 (19) 山 田 史 生 |
| 政策形成における AI 活用に関する一考察 (上) | 蒔 田 純 (31) |
| 音楽の創造行為における試行錯誤の理論化の試み (5) —絶対的評価から創造的評価への移行についての提案— | 清 水 稔 (41) |
| 遠隔授業における「場の共有」 ：コロナ禍における実技授業「後帯機による手織物」 | 秋 元 弦 (53) 富 田 晃 |
| 弘前大学教育学部附属幼稚園児の運動能力について | 益 川 満 治 (63) 杉 本 和那美 野 寄 茉 莉 子 松 山 祐 子 |
| りんご剪定枝を原料とした活性炭に関する研究 (2) ニセアカシアとの基本物性の比較 | 廣 瀬 孝 (71) 菅 原 哲 樹 平 井 秀 樹 |
| 圧密化木材の物性に関する研究 (3) ヒバの音響性能測定 | 廣 瀬 孝 (77) 小 山 栄 美 |
| 小・中学生のお金に対する態度と家庭生活との関連 青森県地方都市における質問紙調査から | 加 賀 恵 子 (81) 李 秀 眞 北 原 啓 司 安 川 あけみ 佐 藤 沙 織 小田桐 由 佳 三 上 真喜子 |
| JTE と ALT が児童生徒の卒業時に求める英語熟達度への意識調査 —テキストマイニングを援用して— | 佐 藤 剛 (93) 芦 田 七 海 川 元 青 空 石 神 響 佐 藤 李 子 清 水 咲 良 羽 田 瑛 里 |
| 登校を渋る発達障害児の中学校進学をめぐる母親の心情に関する質的分析 | 増 田 貴 人 (103) |
| A 大学体育系部活動所属大学生が行う熱中症予防対策の現状と課題 | 酒 井 和 音 (113) 葛 西 敦 子 |
| 社会政策における因果関係の理論的枠組みの探究 —自由と創造性を可能にする政策のパーспекティブ— | 桐 村 豪 文 (123) |
| 学校教育における日本語教育の充実に向けて —弘前大学における新たな日本語教育科目開講と 教育学部多文化リソースルーム設置の試み— | 笹 森 圭 子 (135) 吉 田 美 穂 |

弘前大学教育学部紀要刊行及び投稿規定

弘前大学教育学部 研究推進委員会 紀要編集担当

1. 本紀要は本学部で行われた研究の成果を公表することを目的に刊行する。
2. 発行は原則として各年度の10月及び3月の年2回とし、各号はA4版で約150ページとする。
3. 原稿の締切は概ね7月下旬及び1月上旬とする。
4. 論文の著者には本学部または教職大学院の教員が含まれていなければならない。
5. 論文の本文は横書きの和文又は英文を原則とする。
6. 各論文の長さは図表等を含めて刷り上がり10ページ以内とする。なお、印字の大きさは9ポイント活字相当とし、1印刷ページは和文で1行24字、45行の2段組で2,160字とする。英文等の場合は1段組とする。
7. 原稿の作成に際しては所定の執筆要領（別掲）に従うものとする。
8. 搭載順序など、編集に関することは本委員会紀要編集担当が決定する。なお、論文の内容等について疑義が生じた場合、本委員会は著者と協議し、必要があれば訂正等を求める。
9. 原稿の受理後における内容の変更等は認めない。
10. 校正は原則として著者が行い、2校までとする。
11. 論文が10ページを超える場合や、カラー印刷や図版の作製などに特別の経費を要する場合は、その経費は原則として著者負担とする。
12. 刊行経費が予算を超過した場合、超過分を著者の按分負担とすることがある。
13. 別刷を希望する場合は、投稿の際に必要な部数を申し出る。経費は著者負担とする。
14. 本紀要に掲載された論文の著作権は当該論文の著者に帰属する。ただし、本委員会は掲載された論文を電子化し、「弘前大学学術情報リポジトリ」に掲載して公開することができるものとする。

この規定は、平成30年4月から施行する。

弘前大学教育学部紀要執筆要領

1. 原稿は、手書きの場合字数が明確になるよう原稿用紙に記載する。また、タイプライターやワードプロセッサ等を用いる場合にはA4版の用紙に印字する。なお、パソコン等による原稿には、使用したハードウェア及びソフトウェアを明記したUSBメモリ、CD-R等を添付することが望ましい。
2. 原稿には論文題名、著者名及び所属が和英両語で記載されていなければならない。なお、英語に変えて、他の汎用性の高い言語を用いてもよい。
3. 本文の前には同一の言語による要旨（Abstract）及び、キーワードを置く。要旨は和文の場合には400字以内、英文の場合には120語以内とする。なお、更に別の言語による要旨をおいてもよい。キーワードは数語以内とする。
4. 文献の引用は原則として本文中の該当個所の右肩に片括弧付きの番号で表示し、出典は本文末尾に一括して記載する。その際、雑誌の場合は著者名、論文等の題名、掲載誌名、巻・号、ページ、発行年を、また単行本の場合は著者名、書名、出版社名、ページ、発行年を記載することを原則とする。
5. 印刷に当たって指定したい事項（字体、下線、図表の挿入個所など）は原稿内に朱書するなどして明示する。
6. 図表（写真、楽譜含む）はなるべく少数にとどめ、本文原稿中に挿入することは避け、原則として一つずつA4版程度の白色台紙に貼り添付する。なお、図表の表題、指定事項等は台紙の端に記載する。また、図表は直接製版できるように明確なものとし、図中に文字などを写植する必要がある場合には明確に指示する。
7. 原稿の提出に際しては規定の「投稿申込書」を添付し、本委員会紀要担当者に確認を受ける。

研究推進委員会 紀要編集担当

大 谷 伸 治

島 田 透

田 中 完

高 橋 俊 哉

弘 前 大 学
教 育 学 部 紀 要
第124号
(2020年10月)

令和2年10月27日印刷

令和2年10月30日発行

編集兼発行者

弘 前 大 学 教 育 学 部

弘前市文京町1番地

電話 (0172) 36-2111(代)

印刷所 小 野 印 刷

弘前市富田町52

電話 (0172) 32-7471(代)

CONTENTS

| | |
|---|--|
| On the Japanese language circumstances in the latter half of the Edo era: Chizuko KOHRI (1) Investigation report on "KYOU NO MIZU" documents of Hirosaki City Library possession | |
| Analysis of the Statements of Comparison in the Expository Text Learning (1)... Takuo TANAKA (9) | |
| Fei Ming's Moxuyouxiansheng zhuan : A Transportation (4) Xuejing ZHANG (19) Fumio YAMADA | |
| A Study regarding a Use of AI for Policy-Making (first half) Jun MAKITA (31) | |
| Re-considering the concept of trial and error for creative music-making: Minoru SHIMIZU (41) Transitioning from absolute to creative evaluation | |
| “Sharing Place” in Distance Education Yuzuru AKIMOTO (53) Practical Lesson Related to Covid-19 “Back Strap Loom” Akira TOMITA | |
| Athletic capability of Kindergarteners at Attached Mitsuharu MASUKAWA (63) Kindergarten of Faculty of Education, Hirosaki University Kanami SUGIMOTO Mari NOZAKI Yuko MATSUYAMA | |
| Study on activated carbon from apple pruned branches Takashi HIROSE (71) (2) Comparison with the basic properties of <i>Robinia pseudoacacia</i> Tetsu SUGAWARA Hideki HIRAI | |
| Study on properties of compression wood Takashi HIROSE (77) (3) Sound performance measurement of Hiba Emi OYAMA | |
| The Relationship between Attitudes toward Money and Family Keiko KAGA (81) Life of Elementary and Junior High School Students Sujin LEE Based on a Questionnaire in Local City, Aomori Prefecture Keiji KITAHARA Akemi YASUKAWA Saori SATO Yuka ODAGIRI Makiko MIKAMI | |
| Differences in Expected English Achievements Level between JTEs Tsuyoshi SATO (93) and ALTs : Qualitative and Quantitative Analysis Adopting Text Mining Nanami ASHITA Sora KAWAMOTO Hibiki ISHIGAMI Riko SATO Sakura SHIMIZU Eri HANEDA | |
| A qualitative analysis of the mother's sentiment regarding going on to Takahito MASUDA (103) junior high for a girl with developmental disabilities who have been chronically absent from elementary school | |
| The Problems and Current State of Heat Stroke Prevention Measures Kazune SAKAI (113) Taken by Members of College Athletic Clubs Atsuko KASAI | |
| Exploring the Theoretical Framework of Causality in Social Policy: Takafumi KIRIMURA (123) Policy perspectives that enable freedom and creativity | |
| Enhancing Japanese as a Second Language (JSL) at K-12 Schools Keiko SASAMORI (135) Designing a New JSL Course in Hirosaki University and Multicultural Resource Room in the Faculty of Education Miho YOSHIDA | |